



INDEX

1) 今月の1枚: 「タンザニアのリサイクル品」	3) クリコニ?: 4月のできごと
2) JICA in Tanzania : タンザニアにおける理数科教育への支援	4) 次長の目: 「開発途上国はとって“お徳”」
	5) カリブ・クワヘリ

(1) 今月の1枚: 「タンザニアのリサイクル品」

日本ではリサイクル品と呼ばれる中古品たち。タンザニアでは「Mitumba(ミトゥンバ)」と呼ばれています。

多くは援助として外国から送られてきた中古衣料たちは、種類ごとに束になって小売業者に卸され、各地の市場などで山になって売られています。大量の中古品の中には、有名ブランドのものもあったり、掘り出し物に出会うこともあります。文字通り「頭の前から足の先まで」、つまり帽子、服、靴、靴下、そして下着まで、すべて Mitumba でそろいます。



貧富の差が広がってきた近年では、雑多な市場から掘り出し物を探し出し、新しくタグをつけ、きれいにして高価な店で売る商売人も現れてきました。汚い市場に行って汗をかくよりも、きれいに並べられたお店で快適に買い物をし、値段は高くても安心できる質の品を買う人が増えてきているようです。

ある日のタンザニア人の会話にちょっとギクリとして、考えさせられたことがあります。

「外国の Mitumba はタンザニアに来るけど、俺たちの Mitumba はどこへ行くのかな？」

「……う～ん、田舎に行くんだよ。」

(2) JICA in Tanzania: 「タンザニアにおける理数科教育への支援」

開発途上国における教育の重要性は言うまでもありませんが、中でも理数科目の充実は大きな課題です。理数科を得意としてきた日本がタンザニアにどのような支援を行っているのでしょうか？
担当の西所員より JICA の取組みを紹介します。

タンザニアの中等教育では、学校数や生徒数に対する有資格教員の絶対的な不足が最大の問題になっていますが、中でも理数科教員の養成が緊急課題となっています。教育の質の改善も重要な課題であり、2005 年から政府は実践型の教育を推進していますが、理数科分野では教材や実験用資機材が不足しており、教授方法の工夫による実践型教育の試みが求められています。この課題に対し、1997 からタンザニア政府は前期中等(O-level)理数科教育の質改善を目的とした現職教員研修(INSET)に取り組んでおり、2008 年までに約 3000 名の教員に対し研修を行っています。

JICA は、ケニアを拠点としてアフリカ地域諸国の中等理数科教育強化支援“SMASSE WECSA¹”を実施しています。タンザニアは 2002 年の枠組み発足時から参画、ザンジバル革命自治政府も 2007 年から参画しており、これまでに約 40 名の国家トレーナーがケニアでの研修に参加し、教育行政他国との経験共有や人的ネットワークの構築を図っています。2008 年にはケニアが

¹ SMASSE: Strengthening of Mathematics and Science in Secondary Education, WECSA: Western, Eastern, Central and Southern Africa



ら専門家を招聘し教員研修向け教材開発を行っています。日本やマレーシアで行われる研修を通じた教育行政の改善や教授法改善のためのキーパーソンの能力開発にも取り組んでいます。また、JICAは**青年海外協力隊**として理数科教師の派遣を行ってきており、各地域の学校現場での理数科教育の改善に貢献しています。

JICAタンザニア事務所は、“SMASSE WECSA”の枠組みを活用したタンザニア政府による取組みを支援するために、2009年度からの3年間、中等理数科現職教員研修を通じた教員養成制度の強化を目的とした**技術協力**を行う予定です。新しい技術協力では、現職教員研修用の研修教材の開発、研修講師の育成、州単位での現職教員研修の制度化を支援する予定です。

教師の育成によって、理数科教育の質を改善する試み。国を支える子供達の将来を開く長期的な挑戦に JICA はタンザニア政府とともに益々力を入れていきます。

タンザニアにおける青年海外協力隊たちは、教育関係者を中心に「タンザニア教育研究会」を形成し、タンザニアの教育向上に貢献しています。その中で17名の協力隊員が理数科教師として活動しています。理数科教師隊員が特に多い南東部での活動を、ムトワラの嶺川隊員よりレポートしてもらいます。

南東部の理数科教師隊員は、日々の活動の他に年2回開催される理数科教師のワークショップ(以下WS)へ参加しています。WSとは実際の教室で生徒に模擬授業を行う、日本でいう研究授業に当たります。日本人とタンザニア人の教師が参加するこのWSの狙いは、お互いの授業を評価し各々が課題を見つけることです。ここタンザニアでは、日本とは異なる教授法、日本では習わないトピックがシラバスにあります。WSは、お互いの苦手な部分を補う役目をもっています。



タンザニア人は数学が苦手と聞いていましたが、よく理解をしている教師や、やる気のある教師も多く存在します。しかし、彼らにも苦手な部分があります。日本人が得意とする図形全般、多様なティーチングエイドに関しては隊員が主導し、タンザニア人が得意とする授業の雰囲気作り、生徒の理解へのアプローチの仕方については、我々日本人が学ぶ点として挙げられます。お互いの不

得意な部分を補い、得意な部分を認め合い、そして良い技術を共有することに、このWSの価値があります。



ティーチングエイドの作成

現在は日本人主体で運営されていますが、今後はタンザニア人主体で運営できるようになることが課題です。ムトワラの中等学校で行われているシンポジウムは、協力隊員の教師が補佐役として働きかけていますが、シンポジウムの運営は学校自体で行われていて、タンザニア人主体に移行できた良い例です。今後の南東部のWSにも参考になると良いと思います。

パモジャ4月号でもお伝えしましたが、帰国研修員同窓会(JATA)が、理数科教育に関するワークショップを開催しました。中心者であった、タンザニア教育研究所に勤める Mr. Wangeleja より、ワークショップの様子を伝えてもらいます。

A workshop of secondary school teachers for science and mathematics was held on 27th March 2009 at the Tanzania Institute of Education conference hall. The workshop was organized by JATA. About 50 participants from Dar-es-salaam and Pwani regions attended the workshop.



The workshop objective was to enable teachers who were previously trained in Japan or sponsored by the government of Japan meet and share issues and challenges on implementation of secondary school science and mathematics curricula in schools and how to overcome them.



The workshop consisted of presentations, plenary and panelist discussions. The presentations were on “The relevance of Mathematics and Science Curriculum”, “The Role of T/L materials in Mathematics Teaching and Learning”, both by Ms Mrope, “Effective teaching and learning methods for active learning” by Mr. Hideki Ozawa (JOCV), “The trends of performance in science and mathematics teaching and learning” by Ms Baharia.

The workshop discussed the relevance of science and mathematics curricula and how the implementation is affected by inadequate teaching and learning materials. The Teachers’ conceptual understanding of the competence-based curriculum was at the centre of discussion. Conclusively, In-service Training was recommended the only alternative.

ワークショップの発表者としても参加した青年海外協
力隊、理数科教員の小澤さんからのコメントです。



今回のディスカッションを通して、タンザニア理数科教育の抱えている多くの問題点が改めて浮き彫りになった気がします。多くの教員が様々な不満を抱えながら仕事をしていることに対して、嘆きにも似た意見を吐き出している姿は非常に印象的でした。教員数の不足、カリキュラムの内容が膨大である上に質が高すぎる、小学校教育で基礎がない生徒に中等学校の内容を教えるのは難しい、などの意見は JOCV 理数科教師隊員も日々感じている問題だと思えます。

小学校、中等学校(O-level,A-level 共に)の増設が急速に進み、「就学率の上昇」という“数”の観点では大きな改善が見られるタンザニア教育事情ですが、児童・生徒が日々どのような教育を受けているかという“質”の観点ではまだまだ課題山積の実態があるように思います。

数年で解決できる問題ではないと思いますが、JOCV 理数科教師もタンザニア教員や生徒たちと協力して日々積み重ねていきたいと思いました。



(3)く・り・こ・に? 4月のできごと

ここでは、4月の JICA の活動を紹介します。Kulikoni? とはスワヒリ語で「何があったの?」の意味です。Karibuni!(ようこそ!)

[ニューバガモヨ道路拡幅計画]
3月下旬: 協力準備調査開始

ダルエスサラーム市内の4つの幹線道路の内、片側2車線が未確保のニューバガモヨ道路。この拡幅計画の協力準備調査が3月下旬から行われています。道路の大まかな線形を描き、公共施設や住民の移転や移設がどれだけ必要であるのかをタンザニア側と検討しています。

この地域には、オイスターベイ送配電網整備計画により送電線と変電所が整備される予定です。経済の中心地であるダルエ



渋滞で混乱する狭い交差点

スサラームの電力ネットワークと道路ネットワークの双方を日本が効果的に支援するモデルとして、このプロジェクトに対する期待が高まっています。

[青年海外協力隊]
4月1日: 新ドミトリーOPEN!

多くの隊員の協力の下、ドミトリーの引越しが無事に終わりました。ご協力いただきました皆さんありがとうございます。さて、今度の新ドミは MASAKI となり、以前より交通の面で多少不便になるかもしれませんが、快適さは旧ドミ以上と感じていただきたいと思います。稼動して間もないため、まだまだ多くの改善点を抱えていると思います。皆さんのドミです。ぜひ、感じたことがあれば遠慮なくドミトリー委員会までお知らせください。年4回の大掃除には隊員の皆さんで参加して綺麗なドミを維持しましょう!!

(ドミトリー委員長 星野隊員)



PCや日本語の本が並ぶ作業部屋



[州保健行政システム強化：RRHM]

4月後半：保健福祉省から州保健局への
サポーター・スーパービジョン実施

保健福祉省から州保健局(RHMT)へのマネジメントに特化したサポーター・スーパービジョン(CMSS)を、4月後半に実施しました。スーパーバイザーは、3月にコーチング研修を受けた保健省職員です。今回は、昨年11月のフォローアップとして8州(アルーシャ、ムワンザ、ムトワラ、キゴマ、モロゴロ、ドドマ、イリング、ムベヤ)を訪問し、近隣8州のRHMTメンバーもオブザーバーとして参加したことにより、16州が関与しました。同じ目線で他州の活動を学び、次回のCMSSに備えてもらうのが目的です。

正味4日間の現地滞在では、RHMTのマネジメント能力・タスク評価、県保健局や州病院からの要望確認等を実施しました。

今後プロジェクトでは、首相府地方自治庁を巻き込み、CMSSが中央政府による主流の取組みとなるよう、使いやすいマニュアルを作成していく予定です。

(副総括：福土恵里香)

(写真：ムワンザ州でRHMTと
CMSSスーパーバイザーが共に
タスク評価をしている場面)



[アルーシャ - ナマンガ - アティリバー間道路改良計画]

4月28日：起工式に5カ国の大統領が集う！

雨が降りしきる中、東アフリカ連合体(EAC)加盟国5カ国の首脳や閣僚レベルの錚々たるメンバーがアルーシャ市内から20キロ程離れた起工式会場に大集合しました。前日に起工式会場を視察した際は、“えっ、大丈夫?!?!”と思わせる準備の遅れがありましたが、28日の朝には、会場らしきものがちゃんと出来上がっており、3千人を超える市民が5カ国からの大統領を歓迎する為に待ち構えていました。

本道路改良プロジェクトは日本の円借款により支援されたものであり、日本政府代表として中川大使が挨拶をし、JICAから升本タンザニア所長、倉科アフリカ地域支援事務所長が参加しました。起工式の最後には、5カ国の大統領、アフリカ開発銀行総裁、そして我が国日本の中川大使によって7本の木が植樹されました。

EAC事務局
徳織



(4)次長の目：「開発協調はとっても“お徳”」

(牧野次長 - 最終回)

(「援助協調」はドナー間の協調の意が色濃いので、本紙ではあえて「開発協調」を使用)

エピソードがあります。

一般財政支援のフレームワークに関し、翌年度の経済成長と歳入の予測について所長・次長クラスのドナー会合を終えて、事務所に戻ってくると、遠くから協力隊調整員が走ってきて叫びました「次長、大変です、隣国から来た某隊員がバス内で財布とカメラをすられましたっ」。着任直後は頭の切り替えが難しく精神分裂気味になったものですが、やがて半年もしないうちに、これがJICAだと確信するようになりました。そうです、**ボランティア事業から一般財政支援までやっているドナーは世界にはJICA以外はない**のです。フィールドでの活躍、マクロでの活躍そしてフィールドでの経験を中央につなげるのが他のドナーとの比較優位であるし、現場主義を標榜・実施するJICAの義務だと思えるようになりました。

開発協調というと日本には身構える人がいます。お付き合い、参加料、義務だからしょうがないからやっているという人たちがいます(敵意を持っている人すらいるようです)。でももう少し軽いタッチで考えて、逆に開発協調をうまく使って、徳をしりたいいのではないのでしょうか。開発協調を利用することによって、JICAだけではできないことをしてしまうのです。世界で最も開発協調が進む国のひとつといわれるタンザニアで、開発協調と長年七転八倒、試行錯誤してその経験から、今年の初めに、【開発協調 7つの「現場の視点」】(以下開発協調7つの視点)としてまとめてみました。



要は、開発(援助)協調は、JICA 事業をよりよくするためのツールであり、事務所員の本来業務でもあり、戦略を持ち体制を整備して工夫すれば、JICAの現場力を発揮して成果を上げることができるということです。無論、そのためには現地ODAタスクという「一体感」の下、日本大使館と JICA 事務所の緊密な連携(適切な役割分担と基本認識・情報の共有)が不可欠であることはいまでもありません。

開発協調を利用してタンザニア事務所が成果を挙げた具体的な例としては例えば、JICA のマラリアプロジェクトで開発した看護研修パッケージを、米国が JICA プロジェクト終了後に全国展開を行っている。あるいは灌漑稲作プロジェクトでは、農業SWAPsの枠組みにきちんと位置付けることにより、研修コース実施コストの約9割をバスケットファンドなど JICA 以外の資金源から手当てすることに成功したなどの例があります。

以下7つの視点を列記します。本文はこの7つの条項に各補足説明が記載されていますが、今回は字数の制限から省略します。ご関心がある人は事務所まで連絡ください。

1. 開発協調は、「お付き合い(消費/コスト)」ではなく、JICA 事業を最大化するための「ツール/投資」
2. 開発協調は本来業務
3. 司令塔を軸に、体制整備
4. オープン・マインドで開発協調
5. 一環した戦略性を持つ
6. できるだけ現地のやり方に合わせる
7. JICA の現場力(げんばぢから)を発揮

今回で私の「次長の目」執筆は最後になります。
6月初旬には東京に戻る予定です。
みなさん、本当にお世話になりました。
この場を借りて御礼申し上げます。

(以上)

リレーエッセイ
~Rafiki yangu 私の友だち in Tanzania~

(20-1 次隊 久保智里さん)
彼女の人生で最も親しい日本人は私
と言っても過言ではないでしょう。
抜群の癒し系で、何時間一緒にいても
人を飽きさせない魅力をもった存在です。
努力の甲斐なく未だ笑顔を見せてくれず、
どんなに愛情を伝えても
無反応な彼女ではありますが、
帰国前までには私の存在を認識してくれると信じて
彼女の元へ通い続けています。
最近、不機嫌な顔ができるようになりました。
Namala Leya 中央、膝の上
2009年2月27日生まれ。



次回は、南西部癒し系代表、鈴木さん!
Habari za Tako lako?



(5)カリブ・クワヘリ

~ようこそタンザニアへ! お元気で! さよなら~

~!!!ようこそ!!!~

5月、タンザニア事務所に、2人の新しいスタッフが加わりました。

西村さん

はじめまして、JICA 事務所に社会開発セクター・援助協調等担当所員として5月6日に着任した西村恵美子です。これまで、広報・人間開発部・USAID(出向)にいました。タンザニアは2007年に出張で来て以来2度目ですが、アフリカに住むのは初めてで、わくわくドキドキしています。でも皆さんにカリブーと温かく迎えていただきありがとうございます。これからお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

田内さん

はじめまして、5月19日よりタンザニア事務所にて道路・電力を中心としたインフラ事業担当の企画調査員としてお世話になります田内智子と申します。

出身は千葉県でして、幼少の頃約8年間と中学校時代の4年間を台湾台北市で過ごしました。自然を中心とした環境に関心があり、今年の3月までの3年間は専門調査員として、JICA 審査部にて環境社会配慮審査に従事してまいりました。

野生王国のタンザニアにて、事務所の皆さんとお仕事を一緒にできるのを楽しみにしています。今後、ご指導・ご鞭撻賜ることが多々あるかと存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。



西村さん(右端)、田内さん(右2番目)とともに、社会開発セクターの在外専門調査員として Mr.Musuya(左端)も新たに JICA タンザニア事務所に加わりました。

よろしくお願いいたします!

(写真:事務所での新任あいさつを行う3名)

JICA タンザニア事務所: P.O.BOX 9450 Dar es Salaam

Tel: :255-22-2113727-30、 Fax: :255-22-2112976

<http://www.jica.go.jp/tanzania/>

パモジャ(Pamoja)編集部: 皆様からのご意見や、

Good な情報の提供をお願いします!

adachifumiko.tz@jica.go.jp

